

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第459号 平成24年12月19日

食育の日

本題に入る前に、次の表を見ていただきたいと思います。

選 択 項 目	小学校	中学校
している	85.9%	82.0%
どちらかといえば、している	8.8%	10.7%
あまりしていない	1.3%	5.2%
していない	1.0%	2.0%

この表は、今年の全国学力学習状況調査における児童生徒への質問紙調査の内、「毎日朝食を食べているか」について聞いた答えの結果です。

これを見ると、小学生の14.1%、中学生の18.0%は、毎日しっかりと朝食を取らずに登校している現実が浮かび上がって来ます。

この14.1、18.0という数値だけでは現実感が湧かないかも知れませんが、道内には小学生が約26万人余り、中学生が約14万人弱いますので、これを先程の数値で置き直すと、小学生では3万6千人以上、中学生で2万5千人以上もの子ども達が毎日しっかりと朝食を取らずに登校していることになり、これは決して看過できることではありません。

随分以前から、子ども達の食の貧困が問題になっています。たまさか朝寝坊して、何も食べずに慌てて登校するというのはご愛嬌だとしても、夜更かしして朝起きるのが遅く、それで朝食が食べられないという状況が常態化している。あるいは、家族と一緒に食卓を囲んで食事をする習慣がなく、何時も1人で食事している孤食の風景。更には、お菓子など好きな物ばかりに手を出し、まともな食事を取らない、といった子ども達の食の姿からは、日本という国の将来が、まるで砂で作られた城のように土台から少しずつ崩れて行く、そんな不安を感じさせます。

子ども達がすぐにキレたり、ムカついたりする事についても、子ども達の食との関連が指摘されています。

食は、人の命と心を守り育む極めて重要なものですが、戦後本当の飢餓を知らない私達は、食をおろそかにしているように思えてなりません。

さて、ここからが本題です。

毎月の19日は「食育の日」とされています。

この「食育の日」は、平成17年7月に施行された「食育基本法」に基づき、食育を総合的かつ計画的に推進するために策定された「食育推進基本計画」の中で設定されたもので、この日には、全国各地で、「食育」の普及啓発の為の様々な活動が展開されています。なお、同計画では、毎年6月を「食育月間」と位置付け、「食育の日」と同様、食育推進のための活動が展開されています。

因みに、何故19日が「食育の日」なのかという事については、色々調べたり、聞いたりしましたが良く分かりません。

「食育」の「育(いく)」＝「19」という語呂合わせ、という説や、食(しょく)の「しょ」＝初、即ち1と「く」＝9を合体したという説がある様です。ちょっと捻り過ぎで「何だかなあ」という感じですが、「食育」の重要性は少しも変わりません。

それでは「食育」とは何なのでしょう。

「食育」というのは、「食べ物についての正しい知識、栄養のバランスのとれた食事の大切さ、日本の伝統的な食文化などを、子ども達に伝える教育」という事になります(毎日新聞北海道支社編集部編「いただきますからはじめよう」から)。

「食」は、人が健康的な生活を維持する上で大切である事はいふ迄ありませんが、発達過程にある子ども達にとっては、将来健康で暮らしていく為の基礎を作る上でも、極めて重要なものです。

しかし、残念な事に、現代人は、大人も子どもも忙しい日々の中で「食」の大切さを忘れがちです。

こうした中、食生活を中心とする基本的な生活習慣が形成される小学校から中学校という貴重な時期に、子ども達に対し、様々な学びや体験を通して、食について考え、食に関する知識や望ましい食生活を実践し、身に付けさせようというのが「食育」という事になります。

「食育」について食育基本法は、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものであり、様々な経験を通じて食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てるものと位置付けられています。

それでは、この「食育」の担い手は誰なのでしょう。

いふ迄ありませんが、全ての教職員が「食育」の担い手であるべきです。

平成17年から、「食育」の推進に中核的な役割を担う「栄養教諭制度」が創設されていますので、「食育」は「栄養教諭」の仕事と考えている人がいるかもしれませんが、「食育」を効果的に進めて行く為には、各学校において、学校教育活動全体の中で、継続的かつ体系的に取り組んでいく必要があります。

その為、全教職員は、校内や地域における「食育」の必要性について十分認識を深めると共に、指導法等について研修を深め、それぞれの立場で食に関する指導を積極的に行って行く事が求められます。

また、「栄養教諭」は、そうした学校における「食育」に関するコーディネーターとして、教職員に対する情報提供や的確なアドバイスに努める必要があります。

そして、何より重要な事は、「食育」を学校の中だけの取り組みに止める事無く、各家庭や地域との連携を深め、協働して行く事が重要ですので、そういう面でも「栄養教諭」の主導的役割を期待したいと思います。（塾頭：吉田 洋一）